



能宗 正洋
誠友会
(60分)

市街化調整区域の活性化策は

問 移住を促進するため、農地の権利取得の下限面積のさらなる緩和をどう考えるか。

答 本市では、平成23年9月に市内全域の下限面積を10アールに引き下げた。さらなる引き下げにより、移住促進による空き家の解消と地域活性化につながるほか、

耕作放棄地の発生防止にも一定の効果があると考えられる。

イエナプラン教育は

問 再編後の常石小学校を活用して設置するイエナプラン教育校の特色は。

答 1〜3年生、4〜6年生までの異年齢のグループ編成とし、通学区域は市内全域で、市外、県外からの児童の受け入れも考えている。豊富な地域資源が活用できる環境の中で、異年齢グループによる対話や協働学習に取り組む。



徳山 威雄
誠友会
(50分)

エフピコRiMを子供のための施設に

問 エフピコRiMに「子供科学館」「水族館」等の教育施設を開設し、子供のための施設に特化してはどうか。

答 本市では、少子化時代にあっても、子ども・子育て支援に注力してきた。



エフピコRiMでも、ネウボラ相談窓口「あのねりム」や、えほんの国等から成る「こどもの国」を運営してきたことから、駅前に子どものための施設を集約することも一案であると考えている。

福山駅前再生の取り組みと連動する中で、駅前にあるべき機能も含めた議論を重ね、費用対効果の検討等を行い、今年度中には方向性を出す。



大塚 忠司
新政クラブ
(70分)

※スーパーシティ構想への挑戦は

問 ①構想への挑戦のため、どのように取り組むのか。
②ビッグデータの活用策は。

答 ①自動走行やオンデマンド交通等の実証実験などの取り組みを踏まえ、先端技術を活用した都市づくりの基本戦略を策定する。



岡崎 正淳
無所属
(30分)

立地適正化計画は

問 ①今後の公共交通の在り方への心配が大きい中、計画の推進に当たり、地域公共交通網形成計画との連動は。

②居住誘導区域の設定が想定される平野部は、津波や水害のハザードエリアに該当することが多い。地域防災計画との整合は。

この戦略に基づき重点分野を絞り込み、さらに実証実験を重ね、未来の都市像を練り上げる。

②自動車の走行データを活用したマップ化では、車載器の収集データから運転操作を分析し危険運転箇所を地図上に表して、住民が安全に暮らせる環境形成に役立てる。

また、将来の移住につながる交流人口や関係人口の増加を目的に包括協定締結企業が保有するデータから消費行動を分析し、ターゲットを絞り込み情報を戦略的に発信し、本市の施策効果をより一層高める。

③地域別カルテを各学区・ブロックでの協働のまちづくりに活用すべきと考えるが。

答 ①人口推計データ等を活用し策定する予定の地域公共交通網形成計画の実施計画をベースに、持続可能なコンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりをめざす。
②地域特性に応じたハード・ソフト両面の防災対策を講じるべきとの課題意識を持って取り組む。
③地域まちづくり計画に即した課題解決に役立つもので、これからの地域づくりの議論に生かす。

※スーパーシティ：人口知能（AI）やビッグデータを活用し、革新的な暮らしやすさを実現する最先端都市。
※コンパクト・プラス・ネットワーク：必要な都市機能と質の高いサービスを効率的に提供できるよう、必要なサービス機能を一定地域に集約化し、居住地域と交通や情報通信などのネットワークでつなぐ国土づくりのこと。